

(様式2)

平成 29 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1591000128		
法人名	社会福祉法人 十日町福祉会		
事業所名	ケアホームうえの		
所在地	新潟県十日町市上野甲82番地1		
自己評価作成日	平成29年8月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/15/">http://www.kaigokensaku.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成29年9月24日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は平成28年7月1日に開設し2年目を迎えました。建物は古民家をイメージした造りになっており、居心地の良い空間になるように設計されています。近所にはお食事処があり、外食や出前を依頼することがあります。小学校や地域のイベントへも徐々に参加しており、今後も交流を深めていけるよう、運営推進会議では相談やアドバイスを頂いています。今年からプランター菜園をして、入居者の方から水やりをして頂いたり、収穫を喜びました。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、十日町地域で介護保険事業や高齢者福祉事業、障害者福祉事業、保育園事業等を展開する社会福祉法人に所属し、平成28年7月に小規模多機能型居宅介護事業所とグループホームからなる「ケアホームうえの」として開設して2年目となる。建物には古民家を意識したリビングがあり、広い窓からの採光を工夫して落ち着いた雰囲気を作り出している。

事業所のある地域は、高校や中学校、総合体育館等の隣接する文教地区であり、地域の特性としても交流事業やボランティア活動の盛んな地域である。

管理者及び職員は、利用者とのように関わることへの真摯な考えをもち、法人理念のほか、「ケアセンターうえの」の理念、さらにグループホームの理念に対して、理念の実現を目的として1ヶ月毎に短期目標を設定し、取り組みを行っている。

今後、グループホームとしてのあり方や、地域住民との交流において、これからの進展がますます期待される事業所である。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内(高齢事業部)で統一した理念を掲げている。それを踏まえ、事業所重点目標をつくり、全体会議で共有した。毎月の会議では短期目標をつくり振り返りを行っている。	法人高齢事業部としての理念があり、それを基に「ケアホームうえの」の理念、さらに「グループホームうえの」の理念が作成されている。事業所では理念達成を目的として毎月短期目標を定めており、実践の振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	少しずつ地域の行事やイベントに参加している。個々の参加はできているが、事業所としてみると、気軽に立ち寄れる雰囲気作りはこれからである。地域交流委員会をはじめ情報収集、企画作成をしている。	開設して間もない中で、近隣の小学校の運動会やマラソン大会、学習発表会への参加など、交流の広がりを模索している。利用者・家族向けの広報誌や事業所の行事案内を地域に回覧するなど、「地域交流委員会」を立ち上げて企画検討を行っている。	ボランティア訪問や交流事業の活発な地域の中にあるので、事業所の納涼会や文化祭の企画開催など、地域住民との交流や地域ボランティアの受け入れに向けたさらなる取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方への認知度が十分ではなく、どんなことをしているのか、理解されていない部分もある。また地域貢献までには至っておらず、これからの課題である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1度開催し、実施状況を報告している。民生員の方に防災訓練の見学を依頼し、評価を頂いた。また、地域の行事等を聞き、利用者の参加に繋がっている。	会議は、利用者の家族、地区総代、民生委員、地域包括支援センター職員及び事業所職員を構成メンバーとして概ね2ヶ月に1回開催されている。会議では、利用者の避難経路の段差解消についてなど具体的な改善点が提起されている。	会議へのメンバーの出席実績が乏しく形骸化の傾向にある。会議の構成メンバーについて、利用者をはじめ近隣住民、近隣学校関係者、消防や警察関係者等に幅広く参加を働きかけたり、会議の都度テーマを設けて話し合うなど、会議の持ち方について再検討し、会議を有効に活用する取り組みに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の連絡会に参加している。	地域包括支援センター主催の、川西地域の高齢5事業所が集う連絡会に参加しており、お互いの地域での見守りの取り組みや情報交換を、行政を交えて行っている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加しているが、さらに市町村担当者とも顔の見える関係性を築く工夫が望まれる。事業所の昼食会や行事等に行政関係者を招き、事業所の様子を知ってもらうなど関係性を深めていく取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の研修会に参加計画がある。身体拘束はしていない。居室の窓や玄関の施錠は行っていない。夜間帯は安全面に考慮し、正面玄関の施錠を行っている。	法人マニュアルの他に、身体拘束や虐待についてより具体的にまとめた事業所マニュアルがある。法人で定期的に研修会が開催されており、参加出来ない職員には復命研修が行われている。管理者は、スピーチロック(言葉による行動抑制)を含めて身体拘束が行われないよう、常に注意を払っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修に参加している。虐待は行っていないが、声掛けとして不適切な対応になっていないか振り返ることがある。入浴時には全体観察し、早期発見に努めている。	法人マニュアルの他に事業所マニュアルが整備されており、法人研修とは別に母体施設との合同研修会も企画されている。法人では産業医と契約して職員のストレスマネジメントの体制を整え、年1回ストレスチェックを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修会に参加し、ユニット会議にて復命研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の祭に契約書と重要事項説明書を説明している。施設見学の際に設備を見て頂き、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時に希望の確認を行っている。利用者とは日常会話の中から、家族とは面会時に関わりをもち、要望を聞くようになっている。また自由な意見が記入できるようアンケートボックスを設置している。	利用者や家族との関わりの中で意見や要望を把握するよう努めるとともに、アンケートボックスも設置しているが、家族等からの具体的な苦情や要望、及びアンケートボックスへの意見は未だもらえていない状況がある。	家族や利用者からの苦情や要望は事業所にとって「宝」である。法人内のグループホーム事業所と合同で利用満足度アンケートを実施するなど、家族の声や要望をさらに引き出す工夫に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度初めに全体会議を開催した。事業計画を職員間で確認した。	月1回開催のグループホーム会議では、利用者のケース検討を中心に活発に討議が行われている。運営に関する具体的な事項としては、利用者が使いやすいように談話室コーナーに畳を敷くなど、職員の声や意見が反映されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の定める就業規則や給与規定などに基づき運営している。人事考課制度に取り組み個人目標を設定し、向上心を持って働けるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に施設内、法人内での研修を行い、参加できなかった職員へは月に一度の会議で復命研修を行っている。認知症実践者研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム連絡会で情報交換を行っている。日本認知症グループホーム協会 新潟県支部の連絡会に参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り施設見学に来て頂き、不安に思っている事などを本人から聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学など、家族から見て困っている事などを伺っている。また要望を聞きながら家族と関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人の意向や要望を聞き、環境を整えたり、必要な支援が提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を意識し、出来ることをして頂いている。その際も一方的な声掛けにならないように留意している。信頼関係を築けるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子や相談事などは電話連絡したり、毎月の手紙で報告している。家族に連絡し、誕生日を一緒に過ごして頂いている。家族や友人と外出、外泊をされている。	正月の外泊やお盆のお墓参りなどで家族に協力をしてもらっている。毎月送付するお便りに写真を同封することで、利用者の事業所での様子を家族に知ってもらおう工夫をしている。	事業所とともに利用者を支えてもらう家族との関係をより一層築いていくためにも、さらに家族への積極的な情報発信や家族から参加してもらえる行事の企画立案など、さらなる取り組みに期待したい。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、親戚など面会に来られている。また外出される事もあり気分転換につながっていると思う。床屋は行きつけのところに行き、必要であれば送迎を行っている。	申し出により在宅時に利用していた理美容室を利用できるようにしている。ドライブの際には、働いていた工場や思い出の場所を聞き出して出掛けている。友人や親戚の面会時には湯茶でもてなすなど、また来てもらえるようにさりげない関係継続の支援を心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方々で関係ができていますが、孤立した様子や他者への不満が見受けられたときは職員間で情報共有し、良好な関係作りができるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了された方はいないが、支援が途切れないよう本人、家族の相談に応じて対応をしていきたいと考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングでは本人の意向を聞いている。また日々の中で意向などを聞いたり、毎月の会議で検討し対応に努めている。また家族にも相談しながら連携をとっている。	入居時に、利用者本人及び家族へ暮らしの意向についての確認を行い、フェイスシートに記入している。入居後に把握した思いや意向についても、フェイスシートに追加記入できる書式を使用して職員間で共有を図っている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報で今までの生活を職員間で共有している。改めて本人との会話の中から、または家族から生活歴や趣味、嗜好等を聞き、一人一人の把握に努めている。	入居前に、家族や本人及び居宅のケアマネジャーから事前情報を得て、これまでの暮らしの把握に努めている。入居後に把握した情報についてもフェイスシートに追加記入できる書式を使用して共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24Hシートを活用し、過ごし方、出来ること、支援が必要なことを職員間で共有し対応に努めている。また、その日の様子(体調、表情など)を記録し、会議等で振り返りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングでは担当職員も参加し、本人の意向を聞いている。家族を交えてはできていない。毎月の会議では情報交換し現状に合わせて支援ができるように努めている。	計画作成担当者が中心となって利用者及び家族の意向を聞き取りながら、担当職員も交えて介護計画を作成している。計画の確認は、家族の面会時等を利用して行ったり、来訪できない家族へは電話で事前説明を行ったうえで郵送している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その時の様子を日々記録している。また業務日誌などへの記入と申し送りを行い、情報共有できるようにしている。24Hシートの活用で支援の統一と振り返りを行い、介護計画の反映につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急の病院の受診は職員が業務内容を変更し対応している。その他、散髪や日々の買い物も職員が支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握があまりできていないが、回覧物を届けたり、地域の行事(小学校、地域のクラブなど)への参加、料理店で外食したり、ドライブに出掛けた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は継続されているが、本人のADLの変化により、家族の希望で受診先の変更があった。緊急時の対応はあらかじめ家族に説明している。	家族の協力の下で、利用者9人中3人は協力医院への受診であり、6人はこれまでのかかりつけ医を受診している。受診の際は、連絡シートを活用して事業所から医師へ情報が伝わるようにしている。急変時や著しい変化が見られた場合は、管理者又は計画作成担当者が受診に同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内の看護師に相談をしている。内服薬の相談は薬局に問い合わせたり、協力医に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は服薬内容や普段の様子などの情報を関係者に報告している。また随時、地域連携室と連絡を取り合い、状態報告や退院に向けての相談をしている。退院後のケアについては職員と一緒に話を聞き確認をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、医療の必要性がある時の説明をしている。著変時など家族に状態報告、相談をしている。こまめに連絡を取り合い、支援の方向性を決めていく必要がある。	契約時に家族へ、事業所として出来ること・出来ないことの説明を行っている。これまでに看取りや重度化の事案はないが、事業所にはリフト浴槽の設備があり、ある程度の重度化に対応できる体制も整っている。事業所での生活の限界が見込まれる場合には、早めに本人・家族の意向を確認しながら、状態に応じて適切な場への移行を支援するよう心掛けている。	事業所として利用者の看取りや重度化にどのように取り組むのか、どこまでできるのかななどを職員全員で話し合い、思いを共有し共通認識を持つことが望まれる。さらに看取り・重度化の指針の作成や医療体制の整備など、今後見込まれる重度化への取り組みに期待する。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修に参加している。感染症対策の訓練を行った。急変時のマニュアルの把握に努めている。	法人研修に参加するほか、事業所でも感染症に関する研修を行っている。緊急対応フローチャートを電話近くに掲示し、緊急時に向けた体制を整備している。事故・ヒヤリハット事案があった場合は、1週間後を目途に対処策のモニタリングを実施し、再発防止に取り組んでいる。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会が中心となり訓練計画、実施を行っている。また民生員の方から見学をして頂き評価を頂いている。地域の方からの協力体制や非常食の備えはこれからである。	火災、地震、原発への対応マニュアルが整備されており、年1回の非常招集訓練や年2回の消防署立会いの避難訓練が実施されている。避難訓練では、見学した民生委員の評価を得て、さらに地域住民との協働を模索している。	有事の際は、事業所が単体で災害に対応することは難しい。地域の消防団との連携をはじめ、近隣住民の訓練参加の促進など、地域との協力体制構築に向けた取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、排泄援助などプライバシーに関わることは、声掛けなどに十分配慮している。同性介助を希望されている方には対応している。気をつけているが配慮に欠けた対応でないか振り返ることがある。	接遇に関する法人マニュアルが整備されており、毎年度初めに倫理事項についての法人研修が繰り返し行われている。トイレへのさり気ない誘導や、不在時の入室では必ず本人の了解を得るなど、利用者の尊厳やプライバシーの確保に向けた取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の好みを聞き、個々に対応している。献立に希望を取り入れている。したい事は行事に入れたり、記録に残し、情報共有している。遠慮が見られたら話しやすくなるような声掛けを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24Hシートに沿った対応を心掛けている。個々の時間を自由に過ごせるようにしている。なるべく希望に沿った対応を心掛けているが出来ないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際、服を選んで頂いている。起床時や外出時など、日々清潔を保ちながら、身だしなみを整える支援をしている。希望がある際は理美容店へ外出している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自ら皿洗いをしてくださる方や、下ごしらえを手伝って頂いている。好みなどを聞いたり、季節に合わせた食事を提供している。プランター菜園を楽しみ、収穫し食べている。	利用者の希望を聞きながらメニューを作成し、2日置きに利用者と共に近隣のスーパーへ食材の買い出しに出掛けている。利用者には出来る範囲で食材準備や後片付け等の作業に参加してもらっている。蕎麦稲荷やちまき作りなど季節に応じた郷土料理を取り入れ食事を楽しむ工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食材が重ならないように注意し、栄養バランスのとれた食事が提供できるよう心掛けている。また水分摂取もお茶の時間以外にもとれるよう、居室に水分を置いている方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方もいるが、支援の必要な方に対しては食後に介助している。全員が毎食後にできていないこともあるが、声掛けしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンが把握できない方もいるが、定時誘導したり声掛けを行い、習慣づけるように配慮している。要望のある際は誘導している。	一人ひとりの利用者の排泄リズムを把握し、その人の状況に合わせて定期的にトイレ誘導を行っており、入居当初よりも失禁回数が少なくなっている。必要に応じて居室にポータブルトイレを置くなど、排泄の自立に向けて個別に配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維のある食材、オリゴ糖やオリーブオイルなどの摂取、排泄リズムが習慣化するようにトイレ誘導する、日中の活動量を増やすなど取り組んでいる。医師の指示のもと下剤を調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間など要望を確認している。入りたくない時は希望に合わせている。同性介助をしている。	一般浴槽と重度者用の機械浴槽が整備されている。希望する利用者には同性の職員による介助を行っており、入浴を嫌う利用者には時間をずらしたり対応職員を変えるなど工夫している。時には季節感を感じられる菖蒲湯やゆず湯等にして入浴の楽しみを持てるよう心掛けている。	現在は個々の利用者の入浴回数は週2回程度であるが、今後、毎日入浴を希望する利用者が入居した場合の対応についても全職員で検討してほしい。利用者の希望や生活習慣などに基づいて入浴を楽しめるための支援について、さらなる取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の照明や室温調節をしている。居室にテレビを設置したり自由な時間を過ごして頂いている。シーツ交換も定期的に行い、清潔保持できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬カードを見て作用を確認している。居宅療養管理指導を契約している。薬剤師が薬の管理をしている。また不明点など相談している。服薬時はマニュアルに沿って、誤薬のないように十分気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合わせた支援はこれからの部分もあるが、野菜作りや食事の支度など、今まで暮らしの中で培ったことをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、買い物、地域行事への参加や、希望がある際は個人の買い物支援をしている。家族との外出、外泊や入居前より参加していた地域の交流会への参加も支援している。	個別には、利用者との買い物を中心とした外出を実施している。集団では、季節感を感じられるような外出計画を立て、ひまわり畑やコスモス畑、地域の観光施設、どんど焼き等に出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方のみ所持している。買い物の際は本人に会計して頂いている。お金を所持していない方は必要時に家族に連絡し、持参をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある時は、施設の電話を使用となる。基本は職員が代わって伝えている。郵便物などはご本人に渡している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家を感じるような落ち着いた空間に設計されている。周囲は市道から少し中に入り、居室からは田など自然が眺望できる。リビングにはグリーンカーテンや小物を飾り、居心地の良い空間作りに努めている。	リビングの高い天井には古民家風の太い棧があり、開放感と共に落ち着いた雰囲気が醸し出されている。リビングから少し離れた所に談話コーナーも設けられており、一人または少人数になれる居場所が作られている。壁には、華美にならない程度に装飾を施し、くつろげる空間作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士でテーブル席が定着している。ソファでゆっくりテレビを観る方もいるが、共有スペースで一人になれる空間作りはこれからの課題である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力を頂き、家具の配置や写真を飾ったり、くつろいで頂けるように工夫している。家族の意向で家具等の配置があまりできていない方もいる。居心地よく過ごせるよう本人、家族と相談しながら対応していきたい。	居室にはベッドと衣装ロッカーが備え付けてあるが、その他の家具等の持ち込みは自由である。家族の写真や利用者自身の手作り作品を飾るなど、利用者それぞれの生活状況や意向に合わせた居室作りが行われている。	生活感が乏しい空間、寝るためだけの空間になっていないか、事業所として常に意識しながら利用者が居心地よく過ごせる生活空間づくりへのさらなる支援を期待したい。例えば、時には利用者同士で居室でテレビを見たり、湯茶を楽しみながら談話できるなど、積極的な支援に取り組んでほしい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレには手すりが設置しており、広く造られている。全室バリアフリーになっている。浴槽は利用者の状態に合わせて対応できるようにリフト浴も完備されている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				